

これまでの沖縄の 草の根プロジェクト

沖縄から21カ国34件の
草の根技術協力事業が実施されています。
(2004年～2022年実績)

- ①対象国 ②プロジェクト内容 ③実施団体 ④実施期間 ⑤スキーム

微生物の発酵力を 活かす養鶏

- ①ブータン ②微生物を活用したエコな養鶏
③株式会社みやぎ農園 ④2019年～2022年
⑤地域活性化特別枠 ※現在の地域活性化型のこと

沖縄には鶏舎内や餌づくりで発酵系の微生物が活動できる環境を整えることで、元気な鶏を育てる技術があります。一般的な、消毒をして菌やウイルスを減らす養鶏よりも、雛の生育率も育った鶏の産卵率も高いこの養鶏方法。エコでシンプルな手法であるため開発途上国でもトライしやすい技術です。プロジェクトをとおして、ブータンの気候に適應させたやり方を確立し、モデル鶏舎が完成しました。養鶏農家に広がっていくことを目指しています。

日本では当たり前の “協同組合”をつくり 生産力やブランド力をアップ

- ①ラオス ②協同組合を通じた未来づくり
③生活協同組合コープおきなわ
④2022年～2026年 ⑤パートナー型

沖縄の泡盛は600年ほど前にラオスやタイから沖縄に伝わったお酒と言われています。そんなご縁があるラオスですが、日本では当たり前の“協同組合”が存在しませんでした。2017年から3年間、「ラオラオ酒」の協同組合を作り、“一人ではできないことも皆の力を合わせればできる”を、目に見える形(生産力やブランド力)にして住民や行政に伝えました。次のプロジェクトでは、ラオラオ酒協同組合を地域に根付かせながら、コメ、コーヒー、蜂蜜の新しい組合を誕生させます。さらに大学や行政と連携し、学びの機会を作ります。

エジプト

日本式の“KOMINKAN”をつくり 暮らしを豊かに

- ①エジプト
②公民館(KOMINKAN)によるコミュニティ機能強化
③NPO法人1万人井戸端会議
④2021年～2023年 ⑤支援型

日本には当たり前にあり、沖縄では活発に活用されている公民館。世界ではなかなかこれだけ発達したコミュニティ教育機関はありません。ご縁があつたエジプトは学校で日本式の教育の普及が進んでいる国。コミュニティに教育・学術・文化の拠点となる日本式の「KOMINKAN」を設置することで、誰もが参加できるサークル活動などが行われ、町の人びとの暮らしを豊かにする取り組みが開始しています。



ビーチリゾート頼みではない「観光」

- ①タイ
②地域ブランディングと商品開発による持続可能な観光開発
③名護市/NPO法人レキオウイングス
④2022年～2025年 ⑤地域活性化型

タイ南部のクラビ市は、クラビ川がアンドマン海に流れ込む河口に位置し、豊かなマングローブ林と切り立つ石灰岩をシンボルとする歴史ある町です。周辺のビーチリゾート頼みではない市内観光開発が課題となっており、名護市の知見と経験を活かして、地域ブランディングや特産品・観光商品の開発を行っています。

ブータン

ラオス

タイ

沖縄

パラオ

島しょ地域ならではの 漁業のノウハウを伝える

- ①パラオ ②漁法や水産加工技術の向上、漁業組合の強化
③有限会社琉球環境マネジメントサービス
④2022年～2025年 ⑤パートナー型

沖縄と美しい海でつながるご近所の国パラオ。漁業は大切な産業ですが、サンゴ礁内の魚は取り過ぎで減少傾向です。そのため沖合のマグロやカツオの漁獲が推奨されていますが、組織化された漁民グループが少なく沖合漁業の振興が進みません。沖縄にはパヤオ魚をはじめ、島しょ地域ならではの加工や販売の工夫がたくさんあります。沖縄のノウハウをパラオへ伝えることで、しっかりとした漁業組合を作り、漁民が自ら海を守る取り組みを目指しています。

紛争経験がある地域で メディアが持つ教育の可能性を探る

- ①東ティモール ②教育ラジオ番組の作成
③NPO法人沖縄平和協力センター
④2019年～2022年 ⑤支援型

紛争を経験した東ティモールでは、様々な理由で教育を受けられなかった人々が多くいます。また、テレビやラジオといったメディアは報道と娯楽を中心とした放送をしており、メディアが持つ教育の可能性があまり理解されていませんでした。そこで、現地のラジオ局職員を対象に、日本の教育番組制作のノウハウを伝えることに。リスナーに楽しく学んでもらうために音楽を取り入れたりした番組が制作され、今も現地では放送が続いています。

東ティモール

